釈迦八相之図

【所　在　地】鹿児島市城山町７－２　県歴史資料センター黎明館
【種　　別】県指定有形文化財（絵画）
【指定年月日】昭和 30 年１月 14 日

（第１幅）

（第13幅）

この釈迦八相之図は，もと経囲山宝成就寺大乗院に伝来したもので，『三国名勝図会』には「釈迦八相画十三幅，唐人名筆」とあり，島津義久の寄進と記す。13 幅のうち第９幅の「雪山苦行図」は，義久が国分の龍昌寺建立の際，寄進していたもので，あとから加えられたのであるが，どうして一幅が引離されていたかは詳かでない。

図の大きさは，いずれも，縦 132.0cm，横 65.5cm，釈迦の降誕から入滅までが 13 幅にわたって，極彩色で絹本に描かれ，金泥を使用している。ある時代に補筆のあとが見られるが，原形に近く，制作されたのは，中国の明時代初期といわれる。

追加された「雪山苦行図」は，薩摩の絵師木村探元が補筆しており，その記録が残っているが，現在は剥落が甚だしい。

〈参考〉

●「釈迦八相」　紀元前５世紀頃，中インドを中心に活躍したといわれる仏教の教主釈迦牟尼世尊の生涯における八大事蹟を描いた仏伝図のことで，古来釈迦八相図と呼ばれる。

八大事蹟の内容については諸説あるが降兜率天，託胎，出胎，出家，降魔，成道，転法輪，涅槃が一般的であり，この八相図では，これらの事蹟が 13 幅にわたって描かれている。